

平成29年度 第2回葉山町環境審議会議事録

日時：平成29年10月19日（木）13時30分～15時30分

場所：葉山町役場庁舎3階 議会協議会室1

出席者

（会長）原科 幸彦

（副会長）加藤 清

（委員）錦澤 滋雄、三井 修、相馬 立夫、石井 春夫

人見 孝委員と矢嶋 壮二委員は欠席

（事務局）伊藤 義紀、坂本 泰一、雨宮 健治、小野 卓矢

審議事項

（1）環境配慮・行動指針について

（2）その他

原科会長

予定時刻となりました。これより平成29年度第2回環境審議会を開催します。本日の出席委員について事務局からお願いします。

坂本環境課長

本日は矢嶋委員、人見委員から欠席のご連絡をいただいています。現時点での委員の出席人数は5名となっています。

原科会長

事務局からのお話のとおり、本日の出席委員は8名の委員のうちの5名です。よって出席委員数は過半数に達していますので、環境審議会規則第5条第2項の規程により、会議は成立となります。議題に入る前に、傍聴の取り扱いについて確認させていただきます。前回会議で会議冒頭から、傍聴者の方に入場していただくことになっておりますので、本日もお二人の方に入室していただいています。よろしいでしょうか。

各委員

異論なし。

原科会長

それでは議題に移ります。議題は「環境配慮・行動指針について」です。これについては資料を用意していただきましたので事務局から説明していただきます。

（相馬委員入室）

小野主任

よろしくお願いします。お手元の「平成 29 年度 第 2 回環境審議会」という資料を使って今後の審議会の方向性と第 2 回の議題についてお話をさせていただきます。まず今後のお話をする前に、確認も含め当審議会の主旨と近年の動向についてお話をさせていただきます。当審議会の趣旨は「環境基本計画の策定及び変更に関することや、環境の保全及び創造に関する重要事項について調査・審議し、答申または意見を建議すること」とされています。この趣旨にのっとり近年は簡易アセスメント導入に向けた話し合いがなされています。これらの審議会の趣旨や、近年の審議会の動向・内容を踏まえた上で今後の方向性や議題について検討する必要があります。

一方、前回第 1 回（平成 29 年 7 月 25 日開催）では次のような発言・意見がなされました。

第 1 回審議会でなされた発言・意見（抜粋）

- 日常の環境情報が人々に伝わらず、環境の問題が身近になっていない。
- 葉山の環境が好きという意見が数多くある一方で、環境整備・保全の担い手が少ない。
- 葉山の環境を将来に亘り守り続ける為にも、小さい頃からの環境教育が非常に大事。
- 周囲とのコミュニケーションが、もっと簡単な手続きでできると、日常的に環境に関する物事を考え出すのでは。
- 日常生活の中での取り組みは子どもにとっては環境について考えるきっかけになるのでは。

といったものです。これらをまとめると皆さんの共通認識として以下のような課題とそれに対する解決策があると思います。

課題

- 環境問題が身近でない
- 環境保全に対する取り組みに参加しにくい

解決策

日常生活の身近な問題を通じて、

- 環境問題に対する興味や関心を醸成するような、教育やきっかけ作り
- 環境保全に対する取り組みに子どもから大人まで簡単に参加できるような仕組み作りを行うこと

です。つまり上記のような課題に対し、環境問題を人々にすりこむインプットの取り組みと、それを行動につなげるアウトプットの取り組み、両面からのアプローチが必要と言えます。

では「日常生活の身近な問題」とは何でしょうか。葉山町に当てはめると具体的に次のような問題・トラブルがあります。

葉山町内の日常生活での環境トラブル（具体例）

- 近所で野焼きをしていて煙に困っている
- 隣の飲食店の音がうるさい
- 隣の家から悪臭がする
- 隣の家の木・雑草が繁茂し、自分の家にかかってきて困る
- 隣の家のスズメバチの巣があって危ない

といったものです。こうした日常生活の身近な問題・トラブルに対し町としてどう取り組むのか。町民が安全で快適に、健康的に暮らせる良好な生活環境をつくり、それを保全するため、町民に対し日常生活の中で

「何を」：具体的に皆さんに何をさせていただくのか

- 「どの程度まで」：どこまでの範囲が一般町民にできることなのか
- 「どうやって」：どうやって教育やきっかけ作りを通じて環境問題を認識してもらい、どうやって具体的な行動につなげていただくのか

それらを考えることが町の課題と考えています。

こうした日常生活の小さなトラブルや問題が解決して小さな配慮が町民の方々・事業者の方々・滞在者の方々の間で行われ、積み重なると、大きく具体的な配慮行動につながると思います。それらが葉山町のコミュニティのいたるところから集まるとやがては、

葉山町環境基本計画に掲げられている基本目標

- 人と自然が豊かにふれあえる健全な自然環境の保全
- 健康に暮らせる良好な生活環境の保全と潤いと安らぎのある快適な環境づくり
- 資源やエネルギーを有効利用する循環型のまちづくり
- 協働と連携で進める環境保全

の達成につながると我々は考えています。

ここまでの話をふまえて事務局から議題の提案をさせていただきます。前回第1回に坂本環境課長から簡単にお話をさせていただきましたが、皆さんに環境配慮への取り組みについてお話いただければと思います。環境配慮といっても決して大げさ、大きいものではなく町民一人一人の小さい配慮行動についてお話いただければと思います。繰り返しにはなりますが、これらの積み重ねが大きく具体的な配慮行動につながります。そのために町として町民の方々に対し、「何を」「どの程度まで」「どうやって」日常生活の中で配慮していただき、未然に周囲とのトラブルを防ぐのかなど、委員の皆様方の知見とご意見をいただきたいと思います。私からの話は以上です。

伊藤環境部長

今の話と資料について補足させていただきます。前回第1回で、三井委員がおっしゃられたように自然を保護するための取り組みに対して、気持ちはあるがどういう風に参加していいかわからないであるとか、将来に亘り自然環境を保護する担い手が中々発掘できない

というご意見をいただきました。私達が今回資料を作成させていただいたのは、身近な生活環境や住環境において様々な配慮すべき行動が必要であるというところから、環境に配慮することで自然からの恩恵によって今の生活が保たれている部分もあるという認識をしていただいた上で、まずは例えば環境教育の面からいえば身近な家の中から、歯磨きをする時は水を出しっぱなしにしないとか、なぜそういうことをしなければならないのか幅広い年代の方に深く考えてもらうことで、それはどういう風に波及して広がっていかねばいけなくて、大きい自然の中で人間の生活が営まれる中でどうしても必要なこと、それから例えば山の木、植栽についても昔は里山をどうしても必要とする人間の営みがあったので、否応なしに山の中に入り、山仕事をしていた。それによって樹木が適正に管理されていて、今みたいに山が荒れるようなことがなかった生活が昔はあった。それでは何故、樹木の管理が大切なのかということ、これから将来を担う子どもたちに特に中心に考えてもらった上で、家の中ではこれができたけど、もう少し外に目を向けるとどのようなことが必要なのかというところに波及して深掘りして考えてもらいたいという思いがあります。ですから今回このような資料の作りになっていますが、では自然環境の保護のためにはどのような取り組みがあるのか。例えば町で行われている環境フェスタに参加している人数はどれくらいで、どれくらいの年齢層で、どういうことを環境フェスタで進めているのかということが、どれだけのものか、意識がどこにあるのか、などについてあわせて考えていきたいです。例えば町で行っている、くるくる市のような衣料品・日用雑貨のリサイクルの取り組みは非常に好評です。一方で、環境フェスタの内容は検討が必要だと思っています。本来はもう少し、人がまばらな環境フェスタにこそたくさん来ていただきたいという思いがあります。この環境フェスタについては資料として報告書をまた後ほどお示しいたしますので、それを踏まえた上でご意見をいただければと思います。以上です。

原科会長

ありがとうございます。今事務局から考え方のご説明をいただきました。これについて議論を早速始めたいと思います。できるだけ住民の皆さんの意見を行政に反映させる、あわせて住民が積極的に環境配慮していただくことが必要だと思っています。そのためにどんな仕組みにするのか、どんな風な機会を作ったらいいかなどご意見いただきたいと思います。

加藤副会長

折角、葉山はいい自然環境なのに子どもたちが山に行かない、海で遊ばないということを非常に感じます。素晴らしい自然環境を、地域の人や町も上手く活かしていないという印象を受けます。

原科会長

昔はそうでもなかったが、今は実際の生活の中で、自然と接触する機会がないということでしょうか。時代の変化でしょうか。

三井委員

現場で環境保全の活動をしている者としては、社会のシステム自体が合わなくなっている気がします。つまり小さな子どもを連れてくる 30 代から 40 代の親世代は、父親が休日疲れていて、活動に積極的に参加できず、母親が子どもを連れて参加しているパターンが多いです。社会情勢もあると思いますし、葉山町だけの問題ではないと感じています。

坂本環境課長

確かに海や山で遊ぶことは減っていると感じます。今の社会の情勢ですとか、様々な事情はあると思います。ただ町としては、町が所有する竹林で小学生に竹の子堀体験をしてみたり、海で潮干狩り体験をしてみたりなどイベントとして行っています。それが継続的に子どもたちの遊びにつながるかという点と難しいとは思いますが、葉山には恵まれた自然環境がありますので、それを活用したイベントを通じて子どもたちに環境の魅力・大切さを伝えていこうと考えています。

原科会長

イベントをやるのにも子どもの数は減ってきていますが、こうした取り組みは環境について考える良いきっかけになると思います。それを上手く広げていく工夫が必要です。先ほど伊藤環境部長から環境フェスタの話がありましたが、こちらの補足や説明をしていただけるようでしたらお願いします。

伊藤環境部長

お手元に環境フェスタの報告書を配らせていただきました。こちらは今年度はまだ実施されていないため、平成 28 年度の報告書です。内部の資料です。内容としては身近な葉山町の自然環境について五感を使って体験できるイベントを通じて町民の方々に葉山の自然に興味を持っていただくことを目的としています。平成 28 年度は生物多様性をテーマにして葉山の自然を愛する心を育むきっかけを提供できたのではないかと思います。来場者数は 350 名、三井委員にもご協力いただいて、トークショーとして葉山の自然環境の現状をお話しさせていただきました。こうしたイベントに参加される方は非常に環境への意識が高い方です。ただ、くるくる市の 844 名（第 10 回：平成 29 年 9 月 9 日開催時）の参加者数に比べると少ないのが現状なので、環境フェスタの取り組みに対することに、より裾野を広げ、より多くの方に葉山の環境を知っていただきたいと考えています。そして葉山の環境は、今まではこういった形で守られ、現状はどうなっているのか、これから何をすべきか知っ

ていただく機会を作っていきたいと思います。また、自然の生物との共生ですとか、どの様に自然環境を保全していくかなど、小さい頃から意識を醸成させていくことが大事だと認識しています。

原科会長

ありがとうございます。では、先程のお話にあった、日常生活の身近な問題・トラブルにおける小さな配慮行動について話を進めさせていただきたいと思います。

伊藤環境部長

先程、会議冒頭で小野主任から資料を使っただけの話がありましたが、町民の方々に日常生活の中で周囲の環境に対し、どう配慮していただくかとか、環境への意識を作ることが一番大事なのだと思います。隣家同士のコミュニケーションが不足していて、言いたいことがあるが、付き合いがないため言えないという現状で、行政がどこまで入り込めるか難しいところです。ですが、ちょっとしたコミュニケーションを積み重ねることで、周囲の環境への無関心の風潮が広がりつつある状況を逆に戻していきたいと考えています。様々な自分自身の行動や、周囲に対し配慮すること、また、物事を注意深く見守ることが非常に希薄になってきているので、そうしたことを少しずつ認識し大事にすることで、身近な環境問題・トラブルが表面化しづらくなるのではないのでしょうか。

原科会長

近隣とのコミュニケーションや交流がどうやったら進むか考えないといけませんね。

石井委員

昔はそうしたコミュニケーション・交流があったが、今はそういうことができる雰囲気ではないですね。昔の様な姿に立ち返るといのはなかなか難しいのが現状だと思います。

伊藤環境部長

そうした現状だからこそ、行政と民間事業者と地域が上手く連携し、人間関係をコーディネートするような取り組みが必要だと思います。葉山町は規模が小さいので、やろうと思えば何か全町的な取り組みができると思います。コミュニケーションを高めるような仕組みが何かできると良いなと考えています。

原科会長

どんなことをやれば良いのでしょうか。

加藤副会長

地域のイベントをやっていても、昔に比べたら人間関係やコミュニケーションに変化を感じます。

原科会長

前回、第 1 回の会議で錦澤委員がおっしゃっていたように、ごみの分別収集や家庭での生ごみの堆肥化などは、環境について考えるきっかけになるかもしれませんね。

錦澤委員

確かに社会の変化はありますが、一方で子ども達にも外や自然の中で遊んだりすることは楽しいという感情は今も変わらずあると思います。何か環境関係のイベントをやるにも趣味や娯楽が多様化しているので、人が集まりにくいかもしれませんが、こうしたイベントを開催する意味はあります。一つやったほうがいいと思うのは、周知の方法の工夫です。1 回目のお知らせから、一定の期間を空けて 2 回 3 回繰り返しのお知らせ、開催が近くなったタイミングでリマインドがあると少しは違うかなと思います。

坂本環境課長

周知方法ですが、町では現在、回覧板・広報、ホームページ等を使用していますが、今後は SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）等の使用も検討して、周知の回数を増やすことはできるかなと考えています。

錦澤委員

イベントに参加していただいた方に情報登録してもらって、ソーシャルメディア等を通じてお知らせをまとめて送信すれば、大きな手間にはならないと思います。30代、40代の方も SNS 利用者は多く、発信者もあまり手間もかからずに情報が流せるかなと思います。情報を得る媒体もかなり変わってきている側面もありますが、回覧板等もちろん大事だと思います。

伊藤環境部長

確かにイベント等の周知において、SNS の利用は有効だと思います。

原科会長

イベントの開催頻度を増やすことはできるのでしょうか。

伊藤環境部長

開催頻度を増やすのはどちらが後か先かみたいな話になりますし、人があまり参加しない

と年 1 回でよいとなってしまうことが、逆に人を少なくさせてしまう可能性もあります。ある程度私達がやることは予算の裏づけがあったり、各団体と連携してやることがあるので、積極的に開催回数を増やしたり、様々な媒体を使って情報発信していくつもりです。

原科会長

現在、葉山町には簡易アセスメント、簡単な環境配慮の仕組みがありませんが、そうした仕組みは作れそうですか。

伊藤環境部長

環境部として、簡易アセスメント、環境に配慮するようなことを大きい意味で捉えれば、一例として他の自治体でやっている取り組みですが、小学生の夏休みの宿題の一貫で「エコライフ」というテーマで、「エアコンのフィルターの掃除をしましたか」「テレビ画面の明るさを下げましたか」など複数のチェック項目を載せたチェックシートを配布しています。これは実質的な効果を求めるものではなく、身近な日常生活の中から環境への意識を醸成させる意味合いが強いと思います。環境教育の一貫で、まず身近なことから取り組んでもらうのはいいかなと思います。あとは例を挙げると、町の中で何か工事を行う際に、環境に一定の配慮をしていただいた事業者に対して、町から外向けに公表することぐらいのレベルであれば環境の側面として捉えればできるかなと思います。実際に行っている自治体もあるようなので。ただ、そこから波及して開発事業に絡んでくると、他部をまたがるような話になりますので、十分に内部で議論して進める必要があるかなと思います。

原科会長

まず町の方から、公共的な発想から始めていただいて、周りに見本を示していただいた上で配慮をアピールしていく必要があると思います。

坂本環境課長

そうしましたら事務局の方で、他市の状況等も見ながら、「こういったものはどうですか」というような投げかけをさせていただいて、それに対し「こういうことをやったらどうか」「こうしたことはできないか」などご意見をいただく形はどうかと思います。

原科会長

そうしたことを検討していただくのは良いと思います。まずやってみていただきたいですね。

雨宮環境課長補佐

日常生活の中の環境問題・トラブルはよくよく話を聞くと、少し気を使っていただくとか、事前に周囲に少し話しておけばなんでもないような話が多いです。周囲の環境に対し、少し配慮するとか、配慮していることが周囲に分かるような仕組みがあれば、ある程度皆さんが生活しやすい環境が作れるのではないかと思います。「環境」をキーワードにつなげられるような仕組みを作っていくのがまず第一歩かなと考えています。まず皆さんが取り組めるような内容で、環境について考えていただきます。考えることだけでも環境活動への参加と私は思っています。少しずつステップアップしていき、葉山の環境が良いというのが共通認識として見出しながら維持ができるような仕組みができると良いですね。また、外部からいらっしゃる方についても、何かしらの計画を立てる時に、周囲の環境に配慮して計画を作るのか、そうでないかで結果は全く異なります。環境配慮の行動によって皆さんがつながることができると思います。

原科会長

葉山の新しい文化として、そうしたことができるといいですね。ぜひ町で仕組みをお考えいただきたいと思います。

雨宮環境課長補佐

もう少し披露しやすい具体的なものを作って、「町としてこういう風に考えています」という形で、何かしらの仕組みをお示しできればと思っています。

原科会長

今の町のご意見はいかがですか。

三井委員

実際に動き出すには時間がかかりそうですね。

雨宮環境課長補佐

ハードルを下げれば、意識を少し環境に向けるくらいのステップから始めれば、そこまで難しくないと思います。

原科会長

環境研究の先達、アメリカのバリー・コモナーは「環境とは自分以外のすべて」としましたが、こういう定義があるくらい、環境という言葉が持つ意味は広いです。様々な活動がつながり、交流する場ができると良いですね。葉山は人口も減らず、横ばいで、持続可能な環境を作るには良い状況だと思います。そろそろ時間ですね。坂本環境課長、最後にお

願います。

坂本環境課長

次回、第 3 回環境審議会は 1 月 2 5 日に開催します。よろしく願います。本日はありがとうございました。